

2023年度事業報告・会計報告
及び2024年度事業計画案・収支予算案

2024年4月26日

東京都品川区西五反田一丁目26番2号
五反田サンハイツ内

公益社団法人 日本分析化学会

2023年度（令和5年度）事業報告書

(2023年3月1日～2024年2月29日)

会員の移動状況書

会員種別	員 数		増減数
	令和6年2月29日 現在	令和5年2月28日 現在	
名誉会員	52	48	4
永年会員	331	320	11
正会員	2,964	3,143	-179
シニア会員	67	0	67
教育会員	1	0	1
学生会員	550	514	36
ジュニア会員	5	0	5
維持会員	182	182	0
特別会員	492	511	-19
公益会員	294	304	-10
計	4,938	5,022	-84

1. 第12回定時総会（定款第17条）

日時 令和5年4月26日（水）
場所 日本分析化学会 Web 会議方式 総社員数 115 名 出席者数 96 名

2. 会誌、研究報告および資料の刊行（定款第5条（1））

- ①学会誌「ぶんせき」を下記のとおり、電子版にて発行した。
発行年月日 巻 号
自 令和5年3月5日 2023 3
至 令和6年2月5日 2024 2
毎月1回5日に発行。すべての団体会員と個人会員の希望者には冊子体発行（約1,500部）。
- ②和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行した。
発行年月日 巻 号 発行部数
自 令和5年3月5日 72 3 1,800
至 令和6年1月5日 73 1・2 1,800
(1, 3, 4, 6, 7, 9, 10, 12月5日発行)
- ③英文論文誌「Analytical Sciences」をSpringer Nature社から電子版にて、下記のとおり発行した。
発行年月日 巻 号
自 令和5年3月10日 39 3
至 令和6年2月10日 40 2
毎月1回10日に発行
すべての維持会員と、特別会員、公益会員および個人会員の希望者には冊子体発行（約330部）。
- ④学会、ぶんせき、分析化学、Anal. Sci. 4種のメールマガジンを毎月1回発行した。ただし、「分析化学」誌は発行月のみ年8回。
- ⑤教育用DVDならびにビデオシリーズの頒布を行った。

3. 講演会、講習会および研究会の開催（定款第5条（2））

[研究発表会]

- ①第83回分析化学討論会
日時 令和5年5月20日・21日
場所 現地開催(富山大学五福キャンパス)論文発表404件, 参加者数648名
- ②第72年会
日時 令和5年9月13日～15日
場所 現地開催(熊本城ホール)講演数602件, 参加者数1,112名

4. 調査、研究および建議（定款第5条（3））

[技能試験]

事業所を対象とした技能試験を次のとおり実施し、結果に基づく「技能試験成果報告書」を公刊した。

- ・ISO/IEC 17043に基づく技能試験「第25回ダイオキシン類分析（フライアッシュ）」参加試験所：52

[標準物質]

新規標準物質は作製せず、これまで開発した各種標準物質の供給活動を行った。

[関係団体との協力]

- ①次の諸団体に参画し、種々の調査・建議に協力した。
日本学術会議、(一社)化学情報協会、標準物質協議会、ASIANALYSIS 国際諮問委員会、(一社)日本化学連合/化学系学協会連絡会、男女共同参画学協会連絡会
- ②次の委員会に委員を派遣して各種規格の立案などに協力した。
(一社)日本化学工業協会、(一社)日本試薬協会、(一社)日本環境測定分析協会、(一社)日本分析機器工業会

5. 研究の奨励および研究業績の表彰（定款第5条（4））

- ①2023年度学会賞を次のとおり授与した。
高椋 利幸 君「有機分子の溶存構造に関するマイクロからメゾスコピックレベルにおける分析法の開発」
松井 利郎 君「食品因子の生体利用性に関する分析化学的研究」
宮部 寛志 君「モーメント理論に基づく高性能液相分離系の分析機能創出に関する研究」
- ②2023年度学会功労賞を次のとおり授与した。
大橋弘三郎 君「キレート配位子による金属元素の選択的分離法の開発および学会への貢献」
- ③2023年度技術功績賞を次のとおり授与した。
駒谷慎太郎 君「X線分析顕微鏡の開発とその応用」
澤津橋徹哉 君「PCB 無害化処理プロセス用オンライン迅速分析技術の開発とその社会実装」
- ④2023年度奨励賞を次のとおり授与した。
稲田 幹 君「環境・エネルギー問題解決のためのセラミックス開発と構造解析」
鈴木 敦子 君「金属錯体の特性を利用した分離・分析機能の開発」
高野祥太郎 君「地球化学・海洋化学における微量金属同位体比分析に関する研究」
田中 佑樹 君「ICP 質量分析計を用いた生命金属元素の応用分析法の開発」
渡辺 壱 君「熱分解 GC/MS による高分子材料関連物質のキャラクタリゼーション」
- ⑤2023年度先端分析技術賞を次のとおり授与した。
JAIMA 機器開発賞
西尾 友志 君 室賀 樹興 君 高味 拓永 君
橋本 忠範 君 石原 篤 君
「工業用無補充式セルフクリーニング pH 電極の製品開発およびその防汚技術」
- ⑥2023年度女性Analyst賞を次のとおり授与した。
木村-須田廣美君「赤外・ラマンイメージングによる骨ミネラル代謝の可視化解析法の開発」
吉田 朋子 君「X線吸収分光を基軸とした定量的局所構造・電子状態解析法の構築と複合型その場分析への展開」
- ⑦2023年度有功賞を次のとおり授与した（敬称略）。
小室ゆう子 小住 孝宏 東 康則 小林 秀司
加倉井洋祐 水澄 昌宏 菅 寿夫 高木 正徳
古屋 裕子 長谷恒一郎 前田 憲二 森 有紀子
大島 輝男 西村 重夫 家田まゆみ 井垣 敬士
原田 最之 中村 光昭 長西 敦子 藤井 学
御代田恭子 高橋 里織 篠田 昭二 上野 勝利
野口 純 後々田忠夫 千田 祐美 鈴木 一光
石田 博基 谷口裕美子 伊藤 秀己 栗原 茂
大島 洋一 後藤 直美 鳥井田直美 山田 裕二
江口 祐一 五戸 佐織 松本 弘和 岩崎 知子
星野 健二 白鳥 英雄 松本 博美 清水 誠司
武中 彩 谷井 義治 小田島千子 武石 正幸
鈴木 博美 奥田 和弘 富岡 強 新村 典康
石崎 浩司 玉川 雅幸

- ⑧2022年「分析化学」論文賞を次のとおり授与した。
末吉 健志 君 松田 景太 君 遠藤 達郎 君
久本 秀明 君
「デジタル分子ふるい電気泳動用キャピラリーデバイスの開発」
尾関 優香 君 北川 慎也 君 大谷 肇 君
近藤 洋輔 君 品田 弘子 君
「エレクトロスプレーイオン化-イオンモビリティスペクトロメトリー-質量分析法によるスチレン/アクリル酸n-ブチル共重合体の解析」
- ⑨他機関による表彰および研究助成に対し会員を候補者として推薦した。

6. その他前条の目的を達成するために必要な事業（定款第5条（5））

[広報]

広報委員会展望とトピックス小委員会において、第83回分析化学討論会および第72年会研究発表の中で注目される研究内容を、小冊子「展望とトピックス」にまとめて発行し、ホームページを通し、また、報道機関の記者に同資料を配付して広報した。
ホームページを全面的に改訂し、本会から会員への情報提供、会員相互のコミュニケーション促進を図った。

[若手交流会]

年会討論会において若手ポスター賞選考を支援し、各支部での若手交流会企画と支部同士の情報交換を支援し、各支部に助成を行った。

[研究懇談会]

研究懇談会活動を次のように行った。

①有機微量分析研究懇談会

【委員長：榎飛雄真（千葉大学）、委員11名、会員数157名（個人会員151名、顧問6名）】委員会を2回（1回目はオンライン、2回目は対面+オンラインのハイブリッド形式）開催した。第90回有機微量分析研究懇談会、第122回計測自動制御学会化学量計測部会、第40回合同シンポジウムを6月22日・23日にオンラインで開催（計測自動制御学会化学量計測部会と共催、日本分析化学会、日本化学会、日本薬学会協賛）。その内訳は特別講演2件、口頭発表16件、オンライン分析交流会である。講演会（第72年会9月13日、熊本城ホール、招待講演1件）、マイクロ電子天びんオンラインセミナー（5月19日、座学オンライン）を開催したほか、会報25号を発行（2月）した。ホームページを順次更新し、内容の充実を図った。創立70周年記念事業として過去10年間のシンポジウム講演要旨集や会報のDVD化を行い、会員に配布した。また標準試料検定小委員会において標準試料の検定作業を行った。

②ガスクロマトグラフィー研究懇談会

【委員長：佐藤 博（長崎国際大学）、運営委員会委員56名、会員数102名（個人会員44名、団体会員41機関、名誉会員17名）】運営委員会はメール・遠隔で3回開催、研究会と講習会の運営担当者間では会議を遠隔で複数回開催した。研究会開催数4回（第382回～385回、第72年会講演、ガスクロマトグラフィー研究懇談会特別講演会を開催した。年会講演以外は会場とオンラインのハイブリッドで開催）。第28回キャピラリーガスクロマトグラフィー講習会は見送った。SPRING-8大型放射光施設の見学会（8月25日、25名）を行った。本部主催の日中韓シンポジウム2023（中国）はコロナ禍で中止・延期となった。「ガスクロ・ガスマス自由自在」Q&Aの既刊本の改版とGC/MSの新版を刊行すべく継続実施中である。

③高分子分析研究懇談会

【委員長：菅沼こと（帝人株）、運営委員18名、企画委員6名、会員数163名（個人会員64名、法人会員99社）】開催数：運営委員会6回、企画委員会3回、例会5回（第414回～418回；4月28日[60周年記念講演会]、7月14日・15日、10月3日、12月22日[熱分析研究懇談会との合同例会]、2月15日、第72年会における研究懇談会講演（9月15日、熊本城ホール）、第66回高分子分析技術講習会（応用編）（3月1日・2日、オンライン）、第67回高分子分析技術講習会（基礎編）（8月31日・9月1日、明治大学）、第28回高分子分析討論会（11月9日・10日、つくば国際会議場）をそれぞれ開催した。

④X線分析研究懇談会

【委員長：早川慎二郎（広島大学）、5月より辻 幸一（大阪公立大学）が委員長を代行、運営委員30名、参与9名、会員数122名（個人会員102名、団体会員20社）】開催数：例会2回（第279回・280回）、運営委員会4回（2回はリモート）。「X線分析の進歩」第54集をアグネ技術センターより出版したほか、第59回X線分析討論会（10月21日・22日、東京都市大学で対面開催、参加者160名）を主催した。X線分析討論会において第17回浅田榮一賞を中野ひとみ氏（堀場テクノサービス）に授与し、6件の学生賞を選考し授与した。

⑤分析試薬研究懇談会

【委員長：壹岐伸彦（東北大学）、運営委員会委員15名、参与委員14名、会員数99名（個人会員93名、賛助会員2名）】開催数：1回。第72年会において、分析試薬研究懇談会（9月15日、熊本城ホール、講演1件）を開催した。第20回ホストゲスト・超分子化学シンポジウム（東京都立大学南大沢キャンパス、6月17-18日）を協賛した。

⑥液体クロマトグラフィー研究懇談会

【委員長：中村 洋（東京理科大学）、役員会役員の数30名、会員数184名（個人会員136名、団体会員48社）】コロナ禍の影響を受け、例会の前半（3月から7月まで）はZoomウェビナーで、また後半（9月から2月まで）は対面式で、合計12回実施した（第381～392回）。2023年9月以降は対面式で以下の事業を行った。LC研究懇談会講習会「HPLC & LC/MS講習会2023」（五反田文化会館、9月27日～29日）、第28回特別講演会・見学会（東レリサーチセンター滋賀事業所、11月29日）、LC- & LC/MS-DAYS 2023（琵琶レイクオーツカ、11月30日・12月1日）、第2回LCシニアクラブ（琵琶レイクオーツカ、12月1日・2日、LC懇後援）、第29回LC & LC/MSテクノプラザ（横浜市金沢産業振興センター、1月18日・19日）を主催した。電子ジャーナル『LC & LC/MSの知恵』の第6号（6月15日発行）、第7号（12月15日発行）をホームページに掲載した。『第5回LC分析士三段試験解説書』（7月10日発行）を㈱双文社印刷より発行した。また、下記8種類の日本分析化学会・分析士認証試験を対面形式で実施した：LC初段、LC二段、LC三段、LC四段、LC/MS初段、LC/MS二段、LC/MS三段、LC/MS四段、（LC五段、LC/MS五段は受験者なし）。さらに、第83回分析化学討論会（富山大学五福キャンパス）の前日（5月19日、富山大学）開催された第19回生涯分析談話会、ならびに分析化学会第72回年会（熊本城ホール）の初日（9月13日）夕刻に開催された第20回記念生涯分析談話会をそれぞれ後援した。

⑦化学センサー研究懇談会

【委員長：久本秀明（大阪公立大学）、会員数45名（個人会員45名）】第72年会において化学センサー研究懇談会講演を行った（9月13日、熊本城ホール）。熊本大学の井原敏博先生に講演をお願いし、「合成核酸を利用した生体関連分子および細胞の検出・制御」を拝聴した。多くの参加者があり、議論も盛況であった。また、研究懇談会委員会を行った。

⑧電気泳動分析研究懇談会

【委員長：石濱 泰（京都大学）、顧問7名、常任委員5名、委員33名】第72年会において研究懇談会講演（「イオンモビリティスペクトロメトリー質量分析を用いた合成・生体高分子の分析」北川慎也先生（名工大））を行った（9月15日、熊本）。第43回キャピラリー電気泳動シンポジウム（SCE2023、11月、愛知県名古屋市）を共催した。電気泳動分析懇談会賞（寺部茂賞）の表彰を行った。第10回寺部茂賞は埼玉大学齋藤伸吾教授に授与された。

⑨イオンクロマトグラフィー研究懇談会

【委員長：森 勝伸（高知大学理工学部）、運営委員会委員21名、会員数90名（個人会員82名、維持会員7社、団体会員1社）】運営委員会を1回（年会開催期間中）開催した。講演会を2名（年会会期中（9月15日、熊本城ホール）開催した。分析士（初段）をリモート試験で開催した（1月29日）。分析士認証委員会を開催した（2月7日）。

⑩フローインジェクション分析研究懇談会

【委員長：手嶋紀雄（愛知工業大学）、運営委員会委員49名、会員数113名（個人会員96名、賛助会員9社、特別賛助会員8社）】講演会を2回（年会会期中、9月13日、熊本大学）、第59回FIA講演会（11月24日、とくぎんトモニプラザ）を

開催したほか、Journal of Flow Injection Analysis 誌の発行(40巻1,2号)およびそのための編集委員会を2回(5月(富山大学)と11月(とくぎんトモニプラザ)),また褒賞委員会を1回(9月,熊本大学)開催した。

⑪環境分析研究懇談会

【委員長:梅村知也(東京薬科大学),委員8名,顧問7名,会員数73名(個人会員70名,グループ会員3名)】第72年会において,環境分析研究懇談会講演会(9月15日,熊本城ホール,講演1件)を開催した。また,同日に運営委員会も開催して今後の在り方について議論した。

⑫表示・起源分析技術研究懇談会

【委員長:安井明美((国研)農業・食品産業技術総合研究機構),運営委員会委員15名,参与4名,個人会員43名,団体会員13社】9月15日に第72年会において表示・起源分析技術研究懇談会講演を1件,12月22日に第28回講演会を対面にて,2月28日に第29回講演会をSPRUC文化財研究会との合同でZoomを用いたオンライン方式にて開催した。運営委員会はオンラインにて3月に1回開催した。

⑬化学分析技能研究懇談会

【委員長:上本道久(明星大学),運営委員会委員11名,会員数15名(個人会員のみのみ)】当研究懇談会独自の講演会は年度内開催を中止し,第72年会で懇談会講演を行った。同日に運営委員会を開催して会員拡充と今後の活動について議論した。懇談会講演の資料を会員に配布した。

⑭熱分析研究懇談会

【委員長:西本右子(神奈川大学),運営委員会委員8名,個人会員18名,団体会員8社】対面で熱分析研究懇談会+高分子分析研究懇談会(417回)合同例会を12月22日に開催(参加者計5,234名,熱分析研究今代会から13名,講演計4件,熱分析研究懇談会から2件)を開催した。運営委員長交代があった。

⑮溶液反応化学研究懇談会

【委員長:梅林泰宏(新潟大学),運営委員会委員18名,会員数18名(個人会員18名,賛助会員0名)】9月13日の第72年会(熊本城ホール)で,講演会および運営委員会を開催した。3月30日の医療・診断の化学シンポジウム(新潟大学),11月24日の溶液化学の新たな潮流シンポジウム(駅南キャンパスときめいと)を共催で行った。また,10月18日の現場診断の分析化学シンポジウム(アオーレ長岡)は協力で,10月17日~20日の第45回溶液化学シンポジウム(山形テルサ)は協賛で開催した。

⑯電気分析化学研究懇談会

【委員長:前田耕治(京都工芸繊維大学),運営委員会委員34名,顧問3名】富山大学で開催された討論主題「未来の「食」と「薬」を創る分析化学」を立てて依頼講演6人,一般講演4人を含むシンポジウムを実施した。また,熊本大学で開催された第72年会では,「両連続相マイクロエマルジョン電気化学の分析への応用」國武雅司氏(熊本大学),「Effect of water solubility in organic solvents on electrochemical behavior of ions at W/O interface」Zdeněk Samec(J. Heyrovský Inst. Phys. Chem.),「A polarizable reference electrode」Vladimír Mareček(J. Heyrovský Inst. Phys. Chem.)の3件の依頼講演を行い,活発な質疑が行われた。また,現地で運営委員会を開催し,若手を中心に新規運営委員の候補者数名があげられた。翌年の第84回分析化学討論会に懇談会として「生命の活動を知る分析化学」を討論主題に提案することとなった。また,2024年度より委員長を交代することとした。

⑰ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会

【委員長:渡慶次学(北海道大学),副委員長:火原彰秀(東北大学),会員数:約30名(個人会員のみのみ)】第72年会(熊本城ホール)にて,9月13日に研究懇談会講演会を開催した。また,同学会中(9月13日)に運営委員会を開催し,今後の活動や運営体制について議論した。Pittcon 2024(San Diego)にて,PAI-NET Contributed Session「Analytical Methods for New Analytes: Extracellular Vesicles and PFAS」(2月28日)に協力した。

⑱バイオ分析化学研究懇談会

【委員長:佐藤守俊(東京大学),運営委員会委員11名,顧問2名,会員数14名(個人会員14名,賛助会員0名)】8月4日・5日,第11回Chem-Bio Joint Seminar 2023を大学セミナーハウス(東京都八王子市)で開催し,70名以上が参加した。さらに,第72年会における研究懇談会講演会では,1名の先生をお招きし招待講演を行った。また,同学会中(9月13日)に運営委員会を開催し,今後の活動などを話し合った。

⑲スクリーニング分析研究懇談会

【委員長:津越敬寿(産業技術総合研究所),運営委員会委員8名,会員数15名(個人会員12名,団体会員3名)】年2回の講演会(第7回講演会を9月15日の第72年会において,第8回講演会を2月22日に日立ハイテクサイエンス・東京ソリューションラボにおいて開催した。また,第8回講演会に先立ち運営委員会を開催し,来期の運営方針や活動内容について意見交換を行った。

[支部]

支部活動を次のように行った。

【北海道支部】

①役員の選任

支部長	渡慶次 学		
副支部長	坂入 正敏	(木村)須田廣美	
参与	伊藤八十男	片山 則昭	齋藤 健
神 和夫	高橋 一樹	高橋 英明	長谷部 清
森田みゆき	横沢 龍朗		
監 事	伊藤 慎二	蠣崎 悌司	
庶務幹事	菅 正彦	谷 博文	
会計幹事	真栄城正寿	三浦 篤志	
幹 事	青柳 直樹	池田 敦子	石田 晃彦
今枝 佳祐	上野 貢生	宇都 正幸	大木 淳之
大津 直史	岡 征子	奥田 弥生	川口 俊一
工藤 英博	黒澤 隆夫	齋藤 徹	堺井 亮介
佐々木隆浩	佐藤 久	真田 哲也	高瀬 舞
高橋 徹	田中 俊逸	田原り子	千葉 真弘
徳光 藍	富田 恵一	中田 耕	中谷 暢丈
西村 一彦	沼田ゆかり	古崎 睦	松井 宏之
南 尚嗣	三原 義広	村井 毅	諸角 達也
山田 幸司	吉村 昭毅	若杉 郷臣	龍崎 奏

②研究発表会

- 1) 夏季研究発表会(共催):9月3日,一般講演79件,特別講演2件(参加者113名)。また,懇親会を行った(36名)。
- 2) 化学教育研究協議会(共催)(ハイブリッド):11月11日,北海道教育大学サテライトキャンパス(札幌市)開催,特別講演1件,分析化学若手教育研究者による話題提供,自由討論を行った(参加者56名)。また,懇親会を行った。
- 3) 冬季研究発表会(共催):1月23日・24日。北海道大学学術交流会館(札幌市)開催,研究発表131件(口頭80ポスター51),特別講演1件(参加者312名)。また,懇親会を行った。

③セミナー

- 1) 第39回分析化学緑陰セミナー:7月8日・9日,旅亭 雪の屋(旭川市)開催,招待講演4件,学生によるポスター口頭発表15件を行った(参加者40名)。
- 2) 2023年公開セミナー(ハイブリッド):9月14日,北海道大学函館キャンパス(函館市)開催,講演2件を行った(参加者73名)。
- 3) 第59回氷雪セミナー:1月6日・7日,ホテルグランテラス千歳(千歳市)開催,講演3件を行った(参加者26名)。

④交流事業

若手の会交流会:「九州支部若手の会」へ学生を派遣した。

⑤支部ニュースの発行

北海道支部ニュース第67号,第68号を発行した。

【東北支部】

①役員の選任

支部長	大江 知行		
副支部長	珠玖 仁	高貝 慶隆	
参与	秋葉 健一	宇野原信行	大関 邦夫
大類 洋	尾形 健明	荻野 博	長 哲郎
小田嶋次勝	後藤 順一	斎藤 紘一	佐藤 允美
南原 利夫	糠塚いそし	星野 仁	山崎 慎一

四ツ柳隆夫
 監 事 西澤 精一 藤村 務
 庶務幹事 熊谷 将吾
 会計幹事 李 宣和
 幹 事 赤坂 和昭 壹岐 伸彦 石川大太郎
 伊藤 徹二 伊野 浩介 井上 賢一 岩田 吉弘
 遠藤 昌敏 大橋 弘範 小川 信明 押手 茂克
 尾高 雅文 加藤 健 上條 利夫 唐島田龍之介
 菊地 洋一 菊池美保子 北川 文彦 斎藤昇太郎
 佐藤 勝彦 佐藤 健二 佐藤 雄介 猿渡 英之
 志村 清仁 高橋 薫 田副 博文 多田 美香
 寺前 紀夫 照井 教文 仲川 清隆 沼田 靖
 野原 幸男 橋本 隆光 橋本 幹雄 幡川 祐資
 比嘉 勝孝 平野 愛弓 平山 和雄 福山 真央
 末永 智一 松村 洋寿 眞野 成康 盛田 伸一
 山田 理恵 和久井喜人 渡辺 壱 渡辺 健一
 渡辺 忠一

高橋 豊 豊田 太郎 並木 健二 丹羽 宏之
 沼子 千弥 林 英男 古庄 義明 森岡 和大
 由井 宏治 吉田 達成
 支部幹事 伊藤 彰英 勝又 啓一 吉川ひとみ
 中村 圭介 西島 喜明 半田友衣子 福原 学
 南木 創 森田耕太郎

②研究発表会

2023 年度化学系学協会東北大会および日本化学会東北支部 80 周年記念国際会議 (共催) (主催: 日本化学会東北支部): 9 月 8 日~10 日に開催され (会場: 東北大学青葉山コモンズ・川内萩ホール), 分析化学・環境化学セッションでは, 招待講演 3 件 (海外 2 件, 国内 1 件), 依頼講演 11 件が行われた。

③講演会・セミナー

- 1) 東北支部特別講演会: 3 月 4 日, 菊池美保子博士 ((株) 環境分析研究所) による特別講演会を開催した (会場: 東北大学大学院理学研究科)。
- 2) 第 40 回無機・分析化学コロキウム (共催): 5 月 26 日・27 日に開催され (会場: 山形市協同の杜 J A 研修所), 2 件の招待講演および 7 件の依頼講演が行われた (参加者 103 名)。
- 3) 2023 年度 東日本分析化学若手交流会: 6 月 23 日に開催し (会場: 東北大学環境科学研究科棟), 招待講演 2 件, 学生依頼講演 3 件, ポスター発表 39 件が行われた (参加者 67 名)。また, 優秀ポスター賞 3 件を授与した。
- 4) みちのく分析科学シンポジウム・分離機能とセンシング機能の化学セミナー2023: 7 月 15 日に合同開催し (会場: 東北大学大学院理学研究科), 特別講演 3 件, 若手ポスター発表 18 件が行われた。また, 優秀なポスター発表 3 件に対して, フロンティア・ラボ賞を授与した。
- 5) 東北支部各賞受賞講演会: 12 月 16 日, 東北分析化学奨励賞の授賞式と受賞講演会を開催した (会場: 東北大学大学院理学研究科)。東北分析化学奨励賞: 柳澤華代氏 (福島大), 青木 譲氏 (福島大)。

④助成

令和 5 年度東北支部助成金: 「酸化還元活性な近赤外吸収錯体の自己凝集を利用した腫瘍選択的な造影・治療システムの開発」 (代表: 澤村瞭太氏 (東北大)) を採択した。また, 研究紹介講演会を 12 月 16 日に開催した (会場: 東北大学大学院理学研究科)。

【関東支部】

①役員を選任

支 部 長 安田 純子
 次期支部長 四宮 一総
 副支部長 敷野 修 平山 直紀 宮下 隆
 参 与 梅澤 喜夫 岡田 哲男 小熊 幸一
 大橋弘三郎 金澤 秀子 楠 文代 合志 陽一
 澤田 清 渋谷 雅美 杉谷 嘉則 鈴木 康志
 高田 芳矩 高村喜代子 田中 龍彦 津越 敬寿
 角田 欣一 中込 和哉 中村 洋 二瓶 好正
 丹羽 修 早下 隆士 平井 昭司 藤浪 眞紀
 保母 敏行 本田 俊哉 前田 瑞夫 宮村 一夫
 望月 直樹 矢野 良子 山崎 素直 山根 兵
 山本 博之
 監 事 会田 秀樹 津越 敬寿 板橋 大輔
 常任幹事 青木 寛 石川 隆一 梅林 泰宏
 稲川 有徳 植田 郁生 上野 祐子 桑田 啓子
 大塚 克弘 岡村 浩之 国村 伸祐 菅沼 こと
 坂元 秀之 島田亜佐子 東海林 敦 高橋あかね
 菅原 一晴 鈴木彌生子 高橋由紀子

②講習会・セミナー

- 1) 第 42 回分析化学基礎セミナー—現場技術者の分析技術の基礎習得へ向けて—を 6 月 21 日・22 日にオンライン形式で開催した (講演者 11 名, 受講者 19 名)。
- 2) 第 43 回分析化学基礎セミナー—現場技術者の分析技術の基礎習得へ向けて—を 11 月 13 日・14 日にオンライン形式で開催した (講演者 11 名, 受講者 12 名)。
- 3) 第 13 回分析化学の基本と安全セミナーを 1 月 30 日にオンライン形式で開催した (講演者 7 名, 受講者 17 名)。

③講演会

- 1) ものつくり技術交流会 2023~分析に役立つ基礎技術~: 第 83 回分析化学討論会の関連行事として 5 月 20 日に開催 (参加者 101 名), また, 第 72 年会の関連行事として 9 月 14 日に開催した (参加者 150 名)。それぞれ分析イノベーション交流会が主催, 各討論会・年会実行委員会が共催となり, ハイブリッド形式 (対面形式: 展示交流会, 対面・同時オンライン形式: 講演会) に行行った。
- 2) 令和 5 年度関東支部若手交流会: 東日本分析化学若手交流会: 東北支部若手の会, 関東支部若手の会主催, 各支部共催により 6 月 23 日に東北大学環境科学研究科棟 (青葉山新キャンパス) にて行った (参加者 67 名)。招待講演 2 件, 学生依頼講演 3 件の他, ポスター発表 39 件が行われた。さらに, 優秀ポスター賞の授賞式が行われた。
- 3) 第 16 回千葉県分析化学交流会: 11 月 25 日に東邦大学習志野キャンパスにおいて, 千葉県分析化学交流会主催, 日本分析化学会関東支部, 日本分析化学会液体クロマトグラフィー研究懇談会および日本分析化学会分析士会後援, ならびに 5 団体からの協賛にて開催された。招待講演 4 件, 施設見学会および情報交換会が行われた。参加者は, 一般 31 名, 学生 96 名であった。
- 4) 新潟地区部会第 36 回研究発表会: 関東支部・同新潟地区部会の主催により 11 月 2 日に開催し, 参加者は対面 47 名, オンライン 3 名であった。支部長特別講演, 一般講演 6 件, ポスター発表 11 件, さらに若手賞およびポスター賞の授賞式が行われた。
- 5) 第 17 回茨城地区分析技術交流会: 12 月 1 日にザ・ヒロサワ・シティ会館 (茨城県水戸市) にて開催した (参加者 111 名)。支部長講演に加え, 2 件の依頼講演が行われ, 途中, 協賛企業の展示 (13 社) とポスター発表 24 件 (学生 14 件, 一般 10 件) が行われた。学生 3 件, 一般 1 件の優秀ポスター賞の表彰式を情報交換会にて行った。
- 6) 第 4 回群馬・栃木分析技術交流会: 日本分析化学会関東支部と前橋工科大学生体情報解析研究室の主催によりハイブリッド形式で 12 月 22 日に開催された。3 件の講演が行われ, 対面, オンラインでの参加者数は, それぞれ 19 名, 12 名であった。
- 7) 新世紀賞授賞式および講演会: 1 月 12 日に日本電子大手町会議室とオンラインのハイブリッド形式で開催した (参加者数現地参加 22 名・オンライン 16 名)。新世紀賞受賞者は, 南 豪君 (東京大学), 新世紀新人賞受賞者は, 岡崎琢也君 (東京都立大学) および板橋大輔君 (日本製鉄株) である。
- 8) 令和 5 年度分析イノベーション交流会: 分析イノベーション交流会の主催により 2 月 7 日・8 日に対面形式にて開催した (参加者数 180 名)。討論主題として「極微量分析」, 「高機能材料・界面」を設定し, 展示交流会ならびに講演会が行われた。

④助成

- 1) 分析イノベーションフォーラム助成: 「生体膜デザインコンファレンス」代表者: 東海林敦君 (東京薬科大) および「その場診断に役立つ分析化学” Diagnostic Chemistry”フォーラム」代表者: 渡辺日香里君 (東京理科大学) につ

いて助成を継続した。いずれも助成期間は2024年2月29日まで。

【中部支部】

①役員を選任

Table with 4 columns listing department members: 支部長 (江坂 幸宏), 次期支部長 (倉光 英樹), 副支部長 (小川 数馬), 顧問 (板谷 芳京), 参 与 (一ノ木 進), 監 事 (栗原 誠), 庶務幹事 (山本 拓平), 会計幹事 (水野 初), 常任幹事 (石田 康行), 加藤 亮 (倉光 英樹), 高田 主岳 (高橋 史樹), 湯川 博 (リムリーフ), 幹 事 (青木賢一郎), 植松 宏平 (黄 国宏), 堀川 信之 (勝又 英之), 北出 和久 (木全 良典), 妹尾 健吾 (高橋 透), 手嶋 紀雄 (永谷 広久), 淵上 剛志 (古川 真衣), 三添 英明 (吉田 一之), 藁科 知之 (吉田 佳宏)

②講演会

- 1) 北陸地区講演会 (石川地区): 7月7日, 北陸地区講演会 (石川地区): 7月7日, 金沢大学自然科学系図書館一階大会議室で開催, 講演3件を行った (参加者67名)。
- 2) 静岡地区講演会: 1月31日, 静岡県立大学看護学部棟二階13215教室で開催, 講演3件を行った (参加者30名)。
- 3) 愛知地区講演会: 9月22日, 豊橋技術科学大学サテライトオフィスで開催, 講演3件を行った (参加者30名)。

③講習会

- 1) 第33回基礎および最新の分析化学講習会: 9月21日・22日, 豊橋技術科学大学サテライトオフィスで開催, 講義6件と見学会を行った (参加者34名)。

④セミナー

- 1) 「第40回分析化学中部夏期セミナー」: 9月1日・2日, 大垣市山村体験施設「奥養老」で開催, 招待講演1件, 中部分析化学奨励賞受賞講演2件, 若手依頼講演1件, ポスター発表37件, 企業新製品紹介講演2件を行った (参加者72名)。
- 2) 「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第23回高山フォーラム: 11月17・18日, 高山市図書館「煥章館」およびお宿「山久」で開催, プレビュー講演, ポスター発表46件を行った (参加者57名)。

【近畿支部】

①役員を選任

Table with 4 columns listing department members: 支部長 (山本 雅博), 副支部長 (岩月 聡史), 庶務幹事 (森澤 勇介), 会計幹事 (奥田 浩子), 参 与 (荒川 隆一), 大塚 利行 (大塚 利行), 加納 健司 (河合 潤), 木村 優 (紀本 岳志), 澁谷 康彦 (田中 稔), 寺部 茂 (中原 武利), 藤原 英明 (松下 隆之)

Table with 4 columns listing department members: 渡辺 巖 (大城 敬人), 常任幹事 (下条晃司), 椎木 弘 (壺井 基裕), 高原 晃里 (西 直哉), 幹 事 (青山 佳弘), 石切山一彦 (石濱 泰), 猪鼻 祐介 (上田 啓太), 小堤 和彦 (小山 宗孝), 金尾 英佑 (川上奈津子), 河原 直樹 (川元 達彦), 木村 敦臣 (久保 拓也), 小池 亮 (河野 七瀬), 小林 宏資 (坂本 英文), 下山 昌彦 (白井 理), 杉山 雅人 (鈴江 崇彦), 鈴木 哲仁 (砂山 博文), 宗林 由樹 (宋和 慶盛), 武上 茂彦 (竹田さほり), 茶山 健二 (塚越 一彦), 辻 幸一 (角井 伸次), 土井 光暢 (床波 志保), 中口 譲 (中澤 隆), 中村 稜雅 (中山 茂吉), 野田 達夫 (萩森 政頼), 張野 宏也 (東 昇), 藤居 義和 (藤嶽 暢英), 布施 泰朗 (細矢 憲), 前田 耕治 (牧 輝弥), 三木功次郎 (三戸彩絵子), 向井 浩 (村上 正裕), 森田 成昭 (八木 正浩), 安川 智之 (山垣 亮), 山根 常幸 (吉田 朋子), 渡會 仁 (桑本 恵子), 大城 敬人 (許 岩), 壺井 基裕 (鳥羽真由子), 西 直哉 (山本佐知雄), 幹 事 (青山 佳弘), 石濱 泰 (磯尾賢太郎), 上田 啓太 (遠藤 達郎), 小山 宗孝 (糟野 潤), 川上奈津子 (川崎 英也), 川元 達彦 (北隅 優希), 久保 拓也 (久保 竺公二), 河野 七瀬 (小島 順子), 坂本 英文 (佐々木隆之), 白井 理 (末吉 健志), 鈴江 崇彦 (鈴木 哲), 砂山 博文 (諏訪 雅頼), 宋和 慶盛 (高木 達也), 竹田さほり (谷田 肇), 塚越 一彦 (塚原 聡), 角井 伸次 (坪井 泰之), 床波 志保 (豊田 岐聡), 中澤 隆 (中田 靖), 中山 茂吉 (並川 敬), 萩森 政頼 (橋田紳乃介), 東 昇 (久本 秀明), 藤嶽 暢英 (藤森 啓一), 細矢 憲 (堀山志朱代), 牧 輝弥 (松本 明弘), 三戸彩絵子 (宮崎 哲男), 村上 正裕 (村松 康司), 八木 正浩 (矢嶋 撰一), 山垣 亮 (山口 英一), 吉田 朋子 (脇田 慎一), 渡邊 誠也 (駒谷慎太郎), 高野祥太郎 (高野 陽一), 中島 裕美 (吉田 裕美), 飯田 琢也 (飯田 琢也), 伊藤 滋之 (伊藤 滋之), 岡本 行広 (岡本 行広), 門 晋平 (門 晋平), 川田 武史 (川田 武史), 北山 紗織 (北山 紗織), 倉内 奈美 (倉内 奈美), 小林 典裕 (小林 典裕), 作花 哲夫 (作花 哲夫), 杉原 崇康 (杉原 崇康), 鈴木 康雄 (鈴木 康雄), 瀬戸 康雄 (瀬戸 康雄), 高橋 弘樹 (高橋 弘樹), 千葉 光一 (千葉 光一), 塚本 効司 (塚本 効司), 天満 敬 (天満 敬), 永井 秀典 (永井 秀典), 中原 佳夫 (中原 佳夫), 西尾 友志 (西尾 友志), 長谷川 健将 (長谷川 健将), 平原 学 (平原 学), 藤原 秀和 (藤原 秀和), 丸尾 雅啓 (丸尾 雅啓), 宮道 隆 (宮道 隆), 森内 隆代 (森内 隆代), 安井 裕之 (安井 裕之), 山口 敬子 (山口 敬子), 渡邊 誠也 (渡邊 誠也)

②講演会

- 1) 第18回近畿分析技術研究奨励賞表彰式・受賞講演会: 3月10日, 対面とオンラインのハイブリッド開催, 表彰・受賞講演2件を行った。
- 2) 第1回支部講演会: 4月7日, 対面とオンラインのハイブリッド開催, 講演2件を行った。
- 3) 第2回支部講演会: 7月21日, 対面とオンラインのハイブリッド開催, 講演2件を行った。
- 4) 第3回支部講演会: 12月1日, 対面とオンラインのハイブリッド開催, 講演2件を行った。

③講習会

- 1) ぶんせき講習会・基礎編その1: 5月12日, 大阪公立大学で開催, 講義と講習を行った (受講者35名)。
- 2) ぶんせき講習会・基礎編その2: 6月16日, 堀場テクノサービスで開催, 講義と実習を行った (受講者21名)。
- 3) ぶんせき講習会・実践編: 10月6日, リガクで開催, 講義と実習を行った (受講者18名)。
- 4) ぶんせき講習会・発展編: 11月24日, オンライン開催, 講義と講習を行った (受講者35名)。

④セミナー

- 1) 第1回提案公募型セミナー: 9月22日に大阪公立大学開催 (参加者25名)。
- 2) 第17回近畿支部若手夏季セミナー「ぶんせき秘帖巻ノ拾七」: 8月7日から8日にかけてアイ・アイ・ランドで開催 (参加者62名)。

⑤支部ニュース

ぶんせきニュース第54号および第55号を発行。

⑥支部創設70周年記念事業

支部創設70周年記念式典: 6月24日に大阪工業大学で開催 (参加者132名)。

【中国四国支部】

①役員を選任

Table with 2 columns listing department members: 支部長 (朝日 剛), 次期支部長 (高柳 俊夫), 副支部長 (名郷 洋信)

支部参与	池田 早苗	伊藤 一明	今井 嘉彦	出口 俊雄	中島憲一郎	中村 博	肥後 盛秀
岩知道 正	奥村 稔	木ト 光夫	熊丸 尚宏	増田 義人	松本 清	山口 敏男	山口 政俊
善木 道雄	田頭 昭二	竹味 弘勝	中野 惠文	山田 淳	横山 拓史	吉村 和久	脇田 久伸
林 康久	平田 静子	廣川 健	藤原 照文	監 査	富安 卓滋	赤瀬 信一郎	
北條 正司	真鍋 敬	宮田 晴夫	本仲 純子	庶務幹事	江藤真由美		
本水 昌二	森田 秀芳	山崎 恒博		会計幹事	鈴木 絢子		
支部監事	小園 修治	中山 雅晴		常任幹事	新垣 雄光	井倉 則之	大島 達也
庶務幹事	小崎 大輔	管原 庄吾	水口 仁志	岸川 直哉	栗崎 敏	高橋 幸奈	高椋 利幸
会計幹事	浅岡 聡			竹中 繁織	戸田 敬	浜瀬 健司	松尾 隆司
常任幹事	安達 健太	石坂 昌司	池内 研二	幹 事	松森 信明		
泉 雅典	今井 昭二	上田 忠治	上田 真史	伊藤 圭亮	安藤 功	石岡 寿雄	石川 洋哉
金田 隆	紙谷 浩之	北出 哲朗	北山 宏三	王子田彰夫	井原 敏博	宇都宮 聡	梅木 辰也
座古 保	竹田 一彦	田所 大典	田中 秀治	恩田 健	大渡 啓介	大庭 義史	大平 慎一
谷本 典之	西 博行	原 哲也	平岡 章二	梶島 正美	片山 佳樹	加藤 祐子	梶島 力
藤井 健太	藤本 勉	藤原 薫	森 勝伸	川畑 明	上畑桂太郎	亀川 尚登	川上 健次
盛田啓一郎	森本 勉	藪谷 智規	横山 崇	神崎 亮	神崎 亮	北村 裕介	木下 将和
吉村 友宏	和田 修治			栗原 龍	黒田 直敬	呉 行正	児玉谷 仁
支部幹事	浅野 比	井上 裕文	片岡 洋行	財津 慎一	笹木 圭子	佐藤しのぶ	佐藤 博
荻部 甚一	川村 邦男	小松原恒生	島崎 洋次	佐藤 正雄	佐藤 好美	佐野 洋一	澤津橋徹哉
竹内 政樹	竹永 史典	武安 伸幸	谷村 俊史	塩路 幸生	清水 陽一	白土 英樹	末田 慎二
寺川 敦哉	永阪 文勇	西本 潤	西脇 芳典	宗 伸明	高橋 浩司	高橋 政孝	竹原 公
樋口 浩一	藤原 浩	淵脇 雄介	松原 弘樹	田中 充	手嶋 康介	天日 美薫	富永 昌人
門木 秀幸	山下 浩	山本 剛	山本 孝	鳥羽 陽	中島 常憲	中園 学	中武 貞文
吉岡 徹	和田 光弘			中野 幸二	中村 沙織	中山 研一	新留 康郎
				西田 正志	能田 均	能登 征美	野間 誠司
				馬場 由成	巴山 忠	原口 浩一	原田 明
				原田 雅章	藤井 清永	前田 明広	増田 寿伸
				真瀬田幹生	又吉 直子	松井 利郎	松田 直樹
				松本 篤彦	水城 圭司	満塩 勝	三宅 孝彰
				村田 正治	森 健	安田みどり	藪下 彰啓
				山下 将一	横山さゆり	横山 拓史	吉田 亨次
				吉田 秀幸	吉田 祐一	吉留 俊史	

②研究発表会

- 1) 2023 年日本化学会中国四国支部大会：11 月 11 日・12 日，山口大学常盤キャンパス（共催）。

③講演会

- 1) 中国四国支部分析化学講演会：3 月 11 日，ピュアリティまきび，講演 2 件を行った。
- 2) 岡山地区講演会（岡山地区分析技術懇談会と共催）：2023 年度は開催せず。
- 3) 広島地区講演会（広島地区分析技術研究会と共催）：2023 年度は開催せず。
- 4) 山口地区講演会：2023 年度は開催せず。
宇部・山陽小野田地区講演会（宇部地区分析技術研究会と共催）：2 月 7 日，山口大学工学部（常葉キャンパス）で講演 3 件を行った。
- 5) 愛媛地区講演会（第 10 回先端ナノ・バイオ分析セミナー）：2 月 22 日，愛媛大学理学部講義棟 S24 で，Prof. Mikael Lindgren（ノルウェー科学技術大学（NTNU））講演会を行った（参加者 12 名）。
- 6) 徳島地区講演会（徳島化学工学懇話会と共催）：1 月 16 日，徳島大学薬学部で大学院生研究発表 3 件と特別講演 1 件を行った（参加者 37 名）。
- 7) 鳥取地区講演会（鳥取総合分析研究懇談会と共催）：12 月 1 日，鳥取環境大学まちなかキャンパス，講演 3 件を行った。
- 8) 島根地区講演会（島根環境分析化学・陸水化学懇話会と共催）：2023 年度は開催せず。
- 9) 高知地区講演会（高知地区分析技術懇談会と共催）：2023 年度は開催せず。
- 10) 外国人学者講演会：10 月 31 日，徳島大学常三島キャンパスで Prof. Suherman (Universitas Gadjah Mada, Indonesia) 講演会を行った（参加者 33 名）。

④セミナー

- 1) 第 29 回中国四国支部分析化学若手セミナー：6 月 24 日，山口大学常盤キャンパスにて対面とオンラインのハイブリッド開催，特別講演 2 件，若手・一般講演 18 件を行った（現地参加者 57 名，オンライン参加者 45 名）。

【九州支部】

①役員の選任

支部長	井上 高教			
次期支部長	加地 範匡			
副支部長	稲田 幹	浅田 泰		
参与	石黒 慎一	今坂藤太郎	今任 稔彦	
岩崎 正武	鎌田 薩男	河済 博文	喜納 兼勇	
黒木 広明	合屋周次郎	財津 潔	下田 満哉	
城 昭典	高館 明	谷口 功	田端 正明	

②研究発表会

- 1) 第 60 回化学関連支部合同九州大会（共催）：7 月 1 日，北九州国際会議場で開催。優秀ポスター発表 5 件を「九州分析化学ポスター賞」として選出。

③講演会・セミナー

- 1) 第 36 回若手研究講演会および第 41 回夏季セミナー（主催）：7 月 28 日・29 日，対面形式で開催（参加登録者：23 団体 96 名）。
- 2) 九州支部講演会・見学会（主催）：11 月 10 日，九州支部講演会を住化分析センター・大分ラボラトリーで開催。

④講習会

- 1) 第 61 回分析化学講習会（主催）：8 月 1 日：福岡市産学連携交流センター，8 月 8 日・9 日：九州大学伊都キャンパス，8 月 8 日・9 日：九州大学馬出キャンパス，8 月 22 日：福岡大学理学部で開催。

⑤支部ニュース

- 支部ニュース第 48 号（9 月）および第 49 号（3 月・予定）を発行。

令和5年度会計報告

貸借対照表

(令和6年2月29日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金	123,034,685	122,945,646	89,039
売掛金	1,367,520	1,973,620	△ 606,100
未収金	2,450,195	3,155,075	△ 704,880
棚卸資産	29,928,680	30,085,215	△ 156,535
貯蔵品	84,566	89,071	△ 4,505
一年以内回収予定長期貸付金	199,920	199,920	0
前払金	2,493,410	3,211,047	△ 717,637
仮払金	432,400	384,367	48,033
流動資産合計	159,991,376	162,043,961	△ 2,052,585
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
定期預金	10,000,000	10,000,000	0
基本財産合計	10,000,000	10,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	22,854,892	20,767,023	2,087,869
標準物質開発基金	2,060,473	2,060,453	20
国際交流事業基金	30,300,603	30,300,301	302
分析化学研究奨励基金	17,876,852	20,100,166	△ 2,223,314
預り保証金引当預金	5,000,000	5,000,000	0
支部研究懇談会特定預金	45,509,078	46,209,445	△ 700,367
特定資産合計	123,601,898	124,437,388	△ 835,490
(3) その他固定資産			
建物	8,159,654	8,544,141	△ 384,487
器具備品	223,133	28,334	194,799
土地	30,607,799	30,607,799	0
ソフトウェア	140,490	381,330	△ 240,840
電話加入権	28,000	28,000	0
敷金	100,000	100,000	0
長期貸付金	728,280	928,200	△ 199,920
その他固定資産合計	39,987,356	40,617,804	△ 630,448
固定資産合計	173,589,254	175,055,192	△ 1,465,938
資産合計	333,580,630	337,099,153	△ 3,518,523

貸借対照表

(令和6年2月29日現在)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払金	3,337,749	3,677,724	△ 339,975
前受会費	25,115,600	25,738,750	△ 623,150
前受購読料	1,228,200	1,906,500	△ 678,300
前受金	622,000	879,000	△ 257,000
預り金	487,492	593,594	△ 106,102
仮受金	49,250	84,650	△ 35,400
賞与引当金	2,104,866	2,029,997	74,869
未払消費税等	1,807,300	2,344,300	△ 537,000
流動負債合計	34,752,457	37,254,515	△ 2,502,058
2. 固定負債			
退職給付引当金	49,107,334	47,019,671	2,087,663
預り保証金	5,000,000	5,000,000	0
固定負債合計	54,107,334	52,019,671	2,087,663
負債合計	88,859,791	89,274,186	△ 414,395
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
補助金	0	853,299	△ 853,299
指定正味財産合計	0	853,299	△ 853,299
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
2. 一般正味財産	244,720,839	246,971,668	△ 2,250,829
(うち基本財産への充当額)	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	0	0	0
正味財産合計	244,720,839	247,824,967	△ 3,104,128
負債及び正味財産合計	333,580,630	337,099,153	△ 3,518,523

正味財産増減計算書

(令和5年3月1日～令和6年2月29日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	200	100	100
基本財産運用益	200	100	100
特定資産運用益	1,665	891	774
退職給付引当資産運用益	206	163	43
標準物質開発基金運用益	20	45	△ 25
国際交流事業基金運用益	302	301	1
分析化学研究奨励基金運用益	417	166	251
支部研究懇談会特定預金運用益	720	216	504
受取入会金	149,000	168,000	△ 19,000
受取会費	70,414,460	70,150,111	264,349
正会員会費	24,291,000	24,865,000	△ 574,000
学生会員会費	1,865,250	1,782,000	83,250
維持会員会費	14,586,600	14,523,600	63,000
特別会員会費	14,850,000	14,550,000	300,000
公益会員会費	8,147,600	7,848,000	299,600
支部研究懇談会会費	6,669,510	6,581,511	87,999
教育会員会費	4,500	0	4,500
事業収益	97,176,292	90,390,132	6,786,160
購読料収入	4,387,270	3,718,961	668,309
年会収入	16,610,100	15,067,465	1,542,635
討論会収入	16,580,400	13,050,600	3,529,800
講演会収入	9,233,324	3,786,800	5,446,524
講習会収入	9,355,720	5,637,885	3,717,835
研究懇談会収入	332,500	406,000	△ 73,500
技能試験収入	3,229,380	4,922,500	△ 1,693,120
分析士事業収入	1,721,800	1,721,780	20
印税収入	506,267	505,868	399
教育ビデオ・DVD 頒布収入	525,800	174,350	351,450
標準物質頒布収入	15,205,740	18,891,290	△ 3,685,550
広告料収入	13,469,170	15,778,285	△ 2,309,115
別刷頒布収入	4,993,494	5,965,188	△ 971,694
複写権使用料収入	1,025,327	763,160	262,167
受取補助金等	2,688,299	5,730,395	△ 3,042,096
受取国庫補助金	853,299	2,035,205	△ 1,181,906
受取民間補助金	1,785,000	3,695,190	△ 1,910,190
受取自治体補助金	50,000	0	50,000
受取寄附金	0	0	0
受取寄附金	0	0	0
雑収益	1,039,900	317,817	722,083
受取利息	27,056	32,245	△ 5,189
雑収益	1,012,844	285,572	727,272
経常収益計	171,469,816	166,757,446	4,712,370
(2) 経常費用			
事業費	138,963,591	126,024,121	12,939,470
給料手当	18,705,521	18,152,895	552,626
臨時雇賃金	11,090,265	9,698,675	1,391,590
退職給付費用	1,306,877	1,389,429	△ 82,552
法定福利費	3,387,207	3,307,125	80,082
会議費	16,798,883	7,486,578	9,312,305
旅費交通費	7,158,898	5,117,520	2,041,378
通信運搬費	1,287,221	1,631,567	△ 344,346
減価償却費	819,379	647,613	171,766
修繕費	1,338,797	1,116,720	222,077

正味財産増減計算書

(令和5年3月1日～令和6年2月29日)

(単位：円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
消耗品費	950,549	1,097,669	△ 147,120
印刷製本費	17,330,614	16,205,966	1,124,648
光熱水料費	189,813	239,389	△ 49,576
賃借料	12,551,236	9,529,083	3,022,153
支払リース料	146,910	3,377	143,533
保険料	7,915	3,870	4,045
諸謝金	6,258,176	4,331,938	1,926,238
租税公課	3,743,400	3,875,800	△ 132,400
支払負担金	366,325	345,473	20,852
支払助成金	510,000	700,000	△ 190,000
委託費	32,304,363	38,544,211	△ 6,239,848
表彰費	1,908,391	2,307,420	△ 399,029
雑費	802,851	291,803	511,048
管理費	34,757,054	31,927,958	2,829,096
給料手当	13,802,728	13,187,037	615,691
臨時雇賃金	1,858,113	1,096,370	761,743
退職給付費用	780,786	830,109	△ 49,323
法定福利費	2,934,805	2,455,138	479,667
福利厚生費	310,000	0	310,000
会議費	0	29,600	△ 29,600
旅費交通費	495,774	308,633	187,141
通信運搬費	690,102	672,293	17,809
減価償却費	23,069	24,156	△ 1,087
修繕費	334,699	279,180	55,519
消耗品費	329,511	447,393	△ 117,882
印刷製本費	0	0	0
光熱水料費	54,535	68,295	△ 13,760
賃借料	618,090	489,665	128,425
支払リース料	4,419,800	4,103,440	316,360
租税公課	6,850	3,800	3,050
支払負担金	1,126,461	1,096,488	29,973
委託費	6,662,431	6,694,170	△ 31,739
雑費	309,300	142,191	167,109
経常費用計	173,720,645	157,952,079	15,768,566
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 2,250,829	8,805,367	△ 11,056,196
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	△ 2,250,829	8,805,367	△ 11,056,196
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用	0	0	0
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 2,250,829	8,805,367	△ 11,056,196
一般正味財産期首残高	246,971,668	238,166,301	8,805,367
一般正味財産期末残高	244,720,839	246,971,668	△ 2,250,829
II 指定正味財産増減の部			0
受取補助金等	0	0	0
受取補助金	0	0	0
一般正味財産への振替額	△ 853,299	△ 2,035,205	1,181,906
当期指定正味財産増減額	△ 853,299	△ 2,035,205	1,181,906
指定正味財産期首残高	853,299	2,888,504	△ 2,035,205
指定正味財産期末残高	0	853,299	△ 853,299
III 正味財産期末残高	244,720,839	247,824,967	△ 3,104,128

正味財産増減計算書内訳表

(令和5年3月1日～令和6年2月29日)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
I 一般正味財産増減の部				
1. 経常増減の部				
(1) 経常収益				
基本財産運用益	0	200	0	200
基本財産運用益	0	200	0	200
特定資産運用益	1,439	226	0	1,665
退職給付引当資産運用益	0	206	0	206
標準物質開発基金運用益	0	20	0	20
国際交流事業基金運用益	302	0	0	302
分析化学研究奨励基金運用益	417	0	0	417
支部研究懇談会特定預金運用益	720	0	0	720
受取入金	0	149,000	0	149,000
受取会費	54,478,223	15,936,237	0	70,414,460
正会員会費	18,218,250	6,072,750	0	24,291,000
学生会員会費	1,398,938	466,312	0	1,865,250
維持会員会費	10,939,950	3,646,650	0	14,586,600
特別会員会費	11,137,500	3,712,500	0	14,850,000
公益会員会費	6,110,700	2,036,900	0	8,147,600
支部研究懇談会会費	6,669,510	0	0	6,669,510
教育会員会費	3,375	1,125	0	4,500
事業収益	77,741,036	19,435,256	0	97,176,292
購読料収入	3,509,816	877,454	0	4,387,270
年会収入	13,288,080	3,322,020	0	16,610,100
討論会収入	13,264,320	3,316,080	0	16,580,400
講演会収入	7,386,660	1,846,664	0	9,233,324
講習会収入	7,484,576	1,871,144	0	9,355,720
研究懇談会収入	266,000	66,500	0	332,500
技能試験収入	2,583,504	645,876	0	3,229,380
分析士事業収入	1,377,440	344,360	0	1,721,800
印税収入	405,014	101,253	0	506,267
教育ビデオ・DVD 頒布収入	420,640	105,160	0	525,800
標準物質頒布収入	12,164,592	3,041,148	0	15,205,740
広告料収入	10,775,336	2,693,834	0	13,469,170
別刷頒布収入	3,994,796	998,698	0	4,993,494
複写権使用料収入	820,262	205,065	0	1,025,327
受取補助金等	2,688,299	0	0	2,688,299
受取国庫補助金	853,299	0	0	853,299
受取民間補助金	1,785,000	0	0	1,785,000
受取自治体補助金	50,000	0	0	50,000
受取寄附金	0	0	0	0
受取寄附金	0	0	0	0
雑収益	1,013,776	26,124	0	1,039,900
受取利息	932	26,124	0	27,056
雑収益	1,012,844	0	0	1,012,844
経常収益計	135,922,773	35,547,043	0	171,469,816
(2) 経常費用				
事業費	138,963,591	0	0	138,963,591
給料手当	18,705,521	0	0	18,705,521
臨時雇賃金	11,090,265	0	0	11,090,265
退職給付費用	1,306,877	0	0	1,306,877
法定福利費	3,387,207	0	0	3,387,207
会議費	16,798,883	0	0	16,798,883
旅費交通費	7,158,898	0	0	7,158,898
通信運搬費	1,287,221	0	0	1,287,221
減価償却費	819,379	0	0	819,379
修繕費	1,338,797	0	0	1,338,797

正味財産増減計算書内訳表

(令和5年3月1日～令和6年2月29日)

(単位：円)

科 目	公益目的事業会計	法人会計	内部取引消去	合 計
消耗品費	950,549	0	0	950,549
印刷製本費	17,330,614	0	0	17,330,614
光熱水料費	189,813	0	0	189,813
賃借料	12,551,236	0	0	12,551,236
支払リース料	146,910	0	0	146,910
保険料	7,915	0	0	7,915
諸謝金	6,258,176	0	0	6,258,176
租税公課	3,743,400	0	0	3,743,400
支払負担金	366,325	0	0	366,325
支払助成金	510,000	0	0	510,000
委託費	32,304,363	0	0	32,304,363
表彰費	1,908,391	0	0	1,908,391
雑費	802,851	0	0	802,851
管理費	0	34,757,054	0	34,757,054
給料手当	0	13,802,728	0	13,802,728
臨時雇賃金	0	1,858,113	0	1,858,113
退職給付費用	0	780,786	0	780,786
法定福利費	0	2,934,805	0	2,934,805
福利厚生費	0	310,000	0	310,000
会議費	0	0	0	0
旅費交通費	0	495,774	0	495,774
通信運搬費	0	690,102	0	690,102
減価償却費	0	23,069	0	23,069
修繕費	0	334,699	0	334,699
消耗品費	0	329,511	0	329,511
印刷製本費	0	0	0	0
光熱水料費	0	54,535	0	54,535
賃借料	0	618,090	0	618,090
支払リース料	0	4,419,800	0	4,419,800
租税公課	0	6,850	0	6,850
支払負担金	0	1,126,461	0	1,126,461
委託費	0	6,662,431	0	6,662,431
雑費	0	309,300	0	309,300
経常費用計	138,963,591	34,757,054	0	173,720,645
評価損益等調整前当期経常増減額	△ 3,040,818	789,989	0	△ 2,250,829
評価損益等計	0	0	0	0
当期経常増減額	△ 3,040,818	789,989	0	△ 2,250,829
2. 経常外増減の部				
(1) 経常外収益				
固定資産売却益	0	0	0	0
経常外収益計	0	0	0	0
(2) 経常外費用				
経常外費用計	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0
他会計振替額	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 3,040,818	789,989	0	△ 2,250,829
一般正味財産期首残高	144,247,666	102,724,002	0	246,971,668
一般正味財産期末残高	141,206,848	103,513,991	0	244,720,839
II 指定正味財産増減の部				0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	853,299	0	0	853,299
指定正味財産期末残高	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	141,206,848	103,513,991	0	244,720,839

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

「公益法人会計基準」

(平成 20 年 4 月 11 日(平成 21 年 10 月 16 日改正)内閣府公益認定等委員会)を採用している。

(1) 満期保有目的有価証券の評価基準及び評価方法

償却原価法を採用している。

(2) 棚卸資産の評価基準及び評価方法

先入先出法による原価法を採用している。

(3) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

建物…定額法を採用している。

(ただし、平成 10 年 3 月以前に取得した建物については定率法を採用している。)

器具備品…定率法を採用している。

無形固定資産

ソフトウェア…定額法を採用している。

(4) 引当金の計上基準

賞与引当金…職員に対する賞与の支給に備えるため、支給見込額のうち当期の負担に帰属する金額を計上している。

退職給付引当金…職員の退職給与の支給に備えるため、退職金支給規程に基づき期末自己都合要支給額に相当する金額を計上している。

(5) 消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基 本 財 産				
定期預金	10,000,000	0	0	10,000,000
小 計	10,000,000	0	0	10,000,000
特 定 資 産				
退職給付引当資産	20,767,023	2,087,869	0	22,854,892
標準物質開発基金	2,060,453	20	0	2,060,473
国際交流事業基金	30,300,301	302	0	30,300,603
分析化学研究奨励基金	20,100,166	400	2,223,714	17,876,852
預り保証金引当預金	5,000,000	0	0	5,000,000
支部研究懇談会特定預金	46,209,445	753	701,120	45,509,078
小 計	124,437,388	2,089,344	2,924,834	123,601,898
合 計	134,437,388	2,089,344	2,924,834	133,601,898

財務諸表に対する注記

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳
基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に 対応する額)
基 本 財 産				
定期預金	10,000,000	-	(10,000,000)	-
小 計	10,000,000	-	(10,000,000)	-
特 定 資 産				
退職給付引当資産	22,854,892	-	-	(22,854,892)
標準物質開発基金	2,060,473	-	(2,060,473)	-
国際交流事業基金	30,300,603	-	(30,300,603)	-
分析化学研究奨励基金	17,876,852	-	(17,876,852)	-
預り保証金引当預金	5,000,000	-	-	(5,000,000)
支部研究懇談会特定預金	45,509,078	-	(45,509,078)	-
小 計	123,601,898	-	(95,747,006)	(27,854,892)
合 計	133,601,898	-	(105,747,006)	(27,854,892)

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高
固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位：円)

科 目	取 得 価 額	減 価 償 却 累 計 額	当 期 末 残 高
建物	57,522,500	49,362,846	8,159,654
器具備品	6,008,905	5,785,772	223,133
ソフトウェア	1,204,200	1,063,710	140,490
合 計	64,735,605	56,212,328	8,523,277

5. 満期保有目的の債券の内訳並びに帳簿価額、時価及び評価損益
該当事項はありません。

6. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高
補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位：円)

補助金等の名称	交 付 者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の記載区分
国庫補助金	日本学術振興会	853,299	0	853,299	0	指定正味財産
自治体補助金	高山市	0	50,000	50,000	0	-
民間補助金	大塚電子等	0	1,785,000	1,785,000	0	-
合 計		853,299	1,835,000	2,688,299	0	

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳
指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は以下の通りです。

内 容	金 額
経常収益への振替額	
受取国庫補助金計上による振替額	853,299
合 計	853,299

付 属 明 細 書

1. 基本財産及び特定資産の明細
財務諸表に対する注記3「基本財産及び特定資産の増減額及びその残高」に記載をしているため、内容の記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位：円)

科 目	期首残高	当期増加額	当期減少額		期末残高
			目的使用	そ の 他	
賞与引当金	2,029,997	2,104,866	2,029,997	0	2,104,866
退職給付引当金	47,019,671	2,087,663	0	0	49,107,334

財 産 目 録

令和6年2月29日現在

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現金	手元保管	運転資金として(本部現金 141,951円)	1,096,409
預金	預金合計		121,938,276
	普通預金		27,244,255
	三井住友銀行五反田支店	本部	18,754,537
	三井住友銀行五反田支店	本部講習会口	793,033
	三井住友銀行新宿通支店	本部	1,856,054
	三井住友銀行五反田支店	本部分析士口	204,379
	みずほ銀行五反田支店	本部	2,204,180
	三井住友信託銀行芝営業部	本部	172,092
	鹿児島銀行みずほ通支店	若手交流会	104,940
	GMO あおぞらネット銀行 法人第二営業部	第73年会	1,934,100
	三井住友銀行京都支店	第84回討論会実行委員会	1,220,940
	支部/普通預金		38,850,841
	北洋銀行本店営業部	北海道支部	3,040,434
	七十七銀行大学病院前支店	東北支部	6,671,891
	みずほ銀行五反田支店	関東支部	5,309,654
	みずほ銀行名古屋支店	中部支部	7,047,668
	三井住友銀行名古屋支店	中部支部	220,402
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部	4,805,512
	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部近畿分析技術研究懇話会	3,259,161
	広島銀行西条支店	中国四国支部	8,496,119
	研究懇談会/普通預金		34,497,637
	みずほ銀行南大沢支店	環境分析研究懇談会	534,863
	武蔵野銀行みずほ台支店	有機微量分析研究懇談会	4,144,632
	りそな銀行五反田支店	ガスクロマトグラフィー研究懇談会	1,043,140
	りそな銀行五反田支店	高分子分析研究懇談会	12,409,915
	りそな銀行五反田支店	高分子分析討論会	4,700,568
	七十七銀行本店営業部	分析試薬研究懇談会	541,442
	りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会	1,703,037
	りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会	3,411,325
	十六銀行黒野支店	電気泳動分析研究懇談会	714,415
	荘内銀行宝田支店	電気泳動分析研究懇談会	274,034
	四国銀行朝倉支店	イオンクロマトグラフィー研究懇談会	2,124,746
	三菱UFJ銀行藤ヶ丘支店	フローインジェクション分析研究懇談会	1,830,824
	三菱UFJ銀行平塚支店	熱分析研究懇談会	510,566
	足利銀行宇都宮東支店	化学分析技能研究懇談会	124,124
	京都銀行下鴨支店	電気分析化学研究懇談会	65,635
	みずほ銀行渋谷中央支店	バイオ分析研究懇談会	84,984
	三菱UFJ銀行上野支店	スクリーニング分析研究懇談会	279,387
	ゆうちょ銀行(通常貯金)		14,270,796
		近畿支部	2,003,913
		九州支部	8,320,095
		溶液反応化学研究懇談会	54,353
		有機微量分析研究懇談会	2,373,616
		X線分析研究懇談会	1,027,773
		化学センサー研究懇談会	95,057
		イオンクロマトグラフィー研究懇談会	197,388
		ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会	198,601
	ゆうちょ銀行(振替口座)	運営資金として	5,268,679
		本部	1,096,383
		環境分析研究懇談会	652,387
		有機微量分析研究懇談会	12,626
		X線分析研究懇談会	815,845
		フローインジェクション分析研究懇談会	546,007
		表示・起源分析技術研究懇談会	2,145,431
			1,806,068
定期預金	りそな銀行御堂筋支店	近畿支部	506,068
	広島銀行西条支店	中国四国支部	1,300,000
売掛金	標準物質, 教育DVD	公益目的事業での販売商品に対する未収額	1,367,520
未収入金	広告料, 雑誌	公益目的事業で発行している雑誌の別刷印刷	2,450,195
前払金	討論会・年会実行委員会他		2,493,410
討論会		第84回討論会	779,060
年会		第73年会	65,900
その他		業者委託費	1,648,450

財 産 目 録

(令和6年2月29日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
	棚卸資産	会誌/標準物質/教育DVD/分析士解説書	公益目的事業で販売している商品
	標準物質		29,928,680
	DVD		24,731,897
	分析士解説書		1,814,400
	その他		3,348,846
	貯蔵品	切手、印紙、はがき等	公益目的事業及び法人の管理業務で使用
	一年以内回収長期貸付金	職員住宅購入資金貸付	長期貸付金の一年以内回収予定額
	仮払金		84,566
	労働保険料		199,920
		労働保険料未精算分	432,400
			432,400
流動資産合計			159,991,376
(固定資産)			
基本財産			
	定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	運用益を管理費の財源として使用
			10,000,000
			10,000,000
特定資産			
	退職給付引当資産		職員の退職金の支払いのために使用
	普通預金	みずほ銀行五反田支店	支払の財源として使用
	標準物質開発基金		標準物質開発事業の積立資産であり、運用益を本事業の財源として使用
			22,854,892
			22,854,892
	普通預金	三井住友銀行五反田支店	標準物質開発事業の積立資産であり、運用益を本事業の財源として使用
	預り保証金引当預金		2,060,473
	定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	会誌広告で(株)明報社から受け入れた預金であり、運用益を本事業の財源として使用
			2,060,473
			5,000,000
	国際交流事業基金		公益目的保有財産であり、運用益を国際交流事業の財源として使用
			30,300,603
			30,300,603
	普通預金	三井住友銀行五反田支店	公益目的保有財産であり、運用益を研究の奨励及び研究業績の表彰事業の財源として使用
	分析化学研究奨励基金		公益目的保有財産であり、運用益を研究の奨励及び研究業績の表彰事業の財源として使用
			17,876,852
			17,876,852
	定期預金	三井住友信託銀行芝営業部	各支部研究懇談会の積立資産であり、運用益を本事業の財源として使用
	支部研究懇談会特定預金		各支部研究懇談会の積立資産であり、運用益を本事業の財源として使用
			45,509,078
			45,509,078
	普通預金	七十七銀行大学病院前支店	東北支部企画基金
		七十七銀行大学病院前支店	東北支部活性化基金
		みずほ銀行名古屋支店	中部支部
		りそな銀行御堂筋支店	近畿支部
		四国銀行朝倉支店	イオンクロマトグラフィー研究懇談会
		三菱UFJ銀行藤ヶ丘支店	フローインジェクション分析研究懇談会国際会議
		三菱UFJ銀行藤ヶ丘支店	フローインジェクション分析研究懇談会技術論文
	定期預金	みずほ銀行五反田支店	関東支部
		りそな銀行五反田支店	高分子研究懇談会
		ゆうちょ銀行	X線分析研究懇談会
		りそな銀行五反田支店	液体クロマトグラフィー研究懇談会
			1,497,484
			3,018,853
			1,189,729
			2,001,252
			1,622,769
			3,430,128
			338,666
			11,660,635
			13,023,826
			3,326,056
			4,399,680
その他			
	建物	220.4㎡	
		東京都品川区西五反田	
	器具備品	東京都品川区西五反田	主たる事務所で保有し、公益目的事業及び法人の管理業務で使用
			223,133
			223,133
	土地	30.22㎡	主たる事務所 公益目的事業及び法人の管理業務で使用している
		東京都品川区西五反田	
	電話加入権	3490-3351 他6本	公益目的事業及び法人の管理業務で使用
	ソフトウェア	論文投稿管理システム	公益目的事業で使用している
	敷金	近畿支部	入居している大阪科学センターに対する敷金
	長期貸付金	職員住宅購入資金貸付	
			28,000
			140,490
			100,000
			728,280
			728,280
固定資産合計			173,589,254
資産合計			333,580,630
(流動負債)			
	未払金	いであ他	標準物質管理業務に対する未払額など
	前受会費	翌年度の会費の前受額	会員からの翌年度分の会費の前受額
	前受金	高分子分析研究懇談会他	翌年度実施技術講習会の前受額
	前受購読料	翌年度購読料の前受額	公益目的事業で発行する雑誌購読料の前受額
	預り金	所得税 社会保険料等	
			3,337,749
	健康保険料		25,115,600
	厚生年金保険料		622,000
	源泉所得税		1,228,200
	住民税		487,492
	仮受金		137,805
	賞与引当金	職員4名の夏期賞与	職員4名の夏期賞与の支払いに備えたもの
			246,135
			-26,548
			130,100
			49,250
			2,104,866

財 産 目 録

(令和6年2月29日現在)

(単位：円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
未払消費税等			1,807,300
流動負債合計			34,752,457
(固定負債)			
退職給付引当金	職員4名の退職金	職員4名の退職金の支払いに備えたもの	49,107,334
預り保証金	(株)明報社	会誌広告に関して受け入れたもの	5,000,000
固定負債合計			54,107,334
負 債 合 計			88,859,791
正 味 財 産			244,720,839

監事監査報告書


公益社団法人日本分析化学会

会長 山本 博之 殿

令和6年3月28日

公益社団法人日本分析化学会

監事 田中俊逸 

監事 宮野 博 

私たち監事は、公益社団法人日本分析化学会の令和5年3月1日から令和6年2月29日までの令和5年度の監査を日本分析化学会監事監査規程に基づき実施しましたので、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、日本分析化学会監事監査規程第7条に定める監査事項について、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人から業務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、業務及び財産の状況を調査いたしました。

また、令和5年度事業報告を受領し、さらに、計算書類（貸借対照表、貸借対照表内訳表、正味財産増減計算書、正味財産増減計算書内訳表、財務諸表に対する注記）及び附属明細書並びに財産目録を受領し、これらの書類について監査しました。

2. 監査結果

- 一、事業報告は、法令及び定款に従い、当公益社団法人の状況を正しく示していると認めます。
- 二、理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- 三、計算書類及び附属明細書並びに財産目録は、当公益社団法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認めます。
- 四、引き続き財政状況を注視するとともに、綿密な会員管理と会員（個人・団体）の減少を抑制する対策に引き続き実行することを望みたい。

以上

2024年度(令和6年度)事業計画書

(令和6年3月1日～令和7年2月28日)

1. 定時総会の開催(定款第17条)

第13回定時総会を下記のとおり行う。

日時 令和6年4月26日(金)14時より

場所 Web会議

参加予定者数114人。

2. 会誌、研究報告および資料の刊行(定款第5条(1))

①学会誌「ぶんせき」を下記のとおり発行する。

2024年第3号～2025年第2号 毎月1回、5日に発行(各号A4判,100ページ)。電子版発行(すべての団体会員と個人会員の希望者には冊子体発行)

②和文論文誌「分析化学」を下記のとおり発行する。

第73巻第3号～第12号を7回、および第74巻第1号と2号の合併号を2025年1月に、それぞれ5日に発行(各号A4判,90ページ)発行部数1,800

③英文論文誌「Analytical Sciences」をSpringer Nature社から下記のとおり発行する。

Vol.40 No.3～Vol.41 No.2を毎月1回発行

④学会、ぶんせき、分析化学、Anal. Sci. 4種のメールマガジンを発行する。

3. 講演会および研究会の開催(定款第5条(2))

各支部ならびに研究懇談会が主催するものは別に記載する。

[研究発表会]

①第84回分析化学討論会を下記のとおり行う。

日時 令和6年5月18日(土)・19日(日)

場所 京都工芸繊維大学松ヶ崎キャンパス 参加予定者数600人

②第73年会を下記のとおり行う。

日時 令和6年9月11日(水)～13日(金)

場所 名古屋工業大学 参加予定者数1,000人

4. 調査、研究および建議(定款第5条(3))

[技能試験] 参加予定試験所数:合計50試験所

ISO/IEC17043に基づく分析試験所技能試験を行う。

予定テーマ

ダイオキシン類分析技能試験(河川底質) 50試験所

[標準物質]

新標準物質は作製せず、これまで開発してきた各種標準物質の安定性試験と再認証を必要に応じて行い、社会への供給活動を継続する。

5. 研究の奨励および研究業績の表彰(定款第5条(4))

①学会賞、学会功労賞、技術功績賞、奨励賞、有功賞、本部委員会功労賞、「分析化学」論文賞、先端分析技術賞ならびに女性Analyst賞を下記のとおり表彰する。

学会賞(3名以内)、学会功労賞(5名以内)、技術功績賞(3名以内)、奨励賞(5名以内)、有功賞(50名程度)、本部委員会功労賞(10名程度)、「分析化学」論文賞(2編以内)、先端分析技術賞(2名以内)、女性Analyst賞(2名以内)

②他機関による表彰および研究助成に対して会員を候補者として推薦する。

6. その他目的を達成するために必要な事業(定款第5条(5))

①ホームページをさらに充実させ、本会から会員への情報提供、会員相互のコミュニケーション促進などに役立てるとともに、本会の社会への窓口として有効に活用する。

②本会の広報活動として、各種展示、分析化学討論会および年会におけるハイライト講演をまとめた冊子「展望とトピックス」の発行および報道関係記者への連絡などを行う。

③若手交流会の活動を次のとおり行う。

・各支部の若手交流会企画に対して共催・支援を行う。

・分析化学討論会および年会において若手ポスター賞選考を行う。

④分析士認証活動については、液体クロマトグラフィー研究懇談会およびイオンクロマトグラフィー研究懇談会の項にて述べる。分析士会を開催して講演会などの活動を行う。

7. 各研究懇談会の事業計画

①有機微量分析研究懇談会

委員会を2回、第91回有機微量分析研究懇談会シンポジウム(計測自動制御学会・力量計測部会と共催、日本分析化学会、日本化学会、日本薬学会協賛申請中)を7月に岐阜県岐阜市(岐阜大学)、講演会(第73年会会期中)、マイクロ電子天びん技術研修会(1回)、マイクロ電子天びんオンラインセミナー(座学オンライン,1回)を開催するほか会報第26号(2025年2月)を発行する。ホームページを順次更新し、内容の充実を図る。創立70周年記念事業として標準試料検定小委員会の分析実施機関の表彰などを行う。

②ガスクロマトグラフィー研究懇談会

例会を数回、特別講演会、見学会、講習会(実習付含む)を開催する。例会の中で基礎講座を開催する(受講証を発行)。開催形式として会場での対面開催を基本とし後日参加者に録画配信を行う。昨年試行した、展示に変わる情報交換の場として参加者が資料提供するスペースを設ける。年会で特別講演会を開催する。本部運営となった日中韓シンポジウムの開催に協力する。ガスクロ誕生70周年記念事業として表彰、出版などの企画を進めている。研究懇談会活動の過去記録、講演会資料などをホームページで公開するなどさらにホームページを充実させる。運営委員会をWeb併用して開催する。

③高分子分析研究懇談会

例会を5回(内1回は夏季合宿)、年会時に講演会を開催、高分子分析技術講習会を2回(前期:基礎編,後期:応用編)、第29回高分子分析討論会を10月31日・11月1日にウイנקあいちで開催する。

④X線分析研究懇談会

例会を数回(うち1回は年会時に開催)と第60回X線分析討論会(11月頃,2日間,高知市内の予定)を開催し、「X線分析の進歩」誌(第55集)を出版する。X線分析講習会は9月に実施予定である。運営委員会は年に2回開催する。第18回浅田賞、および、第1回「X線分析の進歩」論文賞の選考・授与を行う。

⑤分析試薬研究懇談会

第73年会で懇談会講演会と幹事会を開催する。また、第21回ホスト・ゲスト・超分子化学シンポジウム(共催、京都大学、6月1日・2日)で招待講演を開催する。

⑥液体クロマトグラフィー研究懇談会

運営委員会を11回、例会を12回(うち1回は年会時に開催)、液体クロマトグラフィー特別講演会・見学会を2回、「HPLC & LC/MS講習会2024」(7月)、「LC- & LC/MS-DAYS 2024」(12月)、「第30回LC & LC/MSテクノプラザ」(1月)を開催する。

「第5回LC分析士三段試験解説書(27冊目)」、「LC & LC/MS用語辞典」、「第5回LC/MS分析士初段試験解説書(28冊目)」の出版に向け、それぞれ査読会を3月、4月、8月に実施する。第84回分析化学討論会(京都工芸繊維大学)の前日に開催される第21回生涯分析談話会、第73年会(名古屋工業大学)の初日に開催される第22回生涯分析談話会をそれぞれ後援する。LC分析士、LC/MS分析士の認証試験(各5回)に対する認証専門委員会を構成し、それぞれ試験を実施する。

⑦化学センサー研究懇談会

第73年会期間中に研究懇談会講演会を開催する。必要に応じて他の研究懇談会とのジョイント講演会も検討する。また化学センサー関連国際会議など、関連する情報の情報交換を行う。女性Analyst賞の推薦など、メール審議事項の承認を行う。

⑧電気泳動分析研究懇談会

講演会を1回(分析化学会年会期間中)開催するほか、第44回キャピラリー電気泳動シンポジウム(SCE2024)(10月,札幌市)を共催する。電気泳動分析研究懇談会賞(寺部茂賞)の選考、褒章を行う。また、本懇談会ホームページ(HP)の整備を行い、シンポジウムの要旨集アーカイブのHP上での公開

ほか、プロトコール集、基礎講座動画の作成・掲載など内容の充実を図る。

- ⑨イオンクロマトグラフィー研究懇談会
分析士(初段)のオンライン試験(1月下旬)を実施予定。分析士(2段)のオンライン試験(6月下旬)を実施予定および分析士専門認証委員会を年2回開催予定。IC企画講演会(9月、第73年会)を開催予定。第39回IC討論会・12th Asia Pacific Symposium on Ion Analysis(12月、インドネシア)を合同開催予定。運営委員会を年2回開催予定(メール会議を含む)。
- ⑩フローインジェクション分析研究懇談会
第60回FIA講演会(11月予定、金沢工業大学)を開催する。褒賞委員会を第73年会(9月、名古屋工業大学)の会期中に開催する。第73年会会期中に研究懇談会講演会を行う。第84回分析化学討論会会期中および第60回FIA講演会会期中に「Journal of Flow Injection Analysis」(JFIA)誌編集委員会を開催するほか、第60回FIA講演会中にJAFIA委員会を開催する。JFIA誌を2回(6月、12月)発行する。日中韓分析化学シンポジウムの開催に協力する。The 23rd International Conference on Flow Injection Analysis(12月、タイ)を共催する。
- ⑪環境分析研究懇談会
講演会を2回(第73年会会期中および6月または12月)、運営委員会を1回(第73年会会期中)開催する。また、他の研究懇談会や研究会との交流を深め、必要に応じてジョイント講演会を開催する。会員拡充に努め、メーリングリストとホームページを活用した情報発信・情報交換も適宜行う。
- ⑫表示・起源分析技術研究懇談会
講演会を3回(第73年会会期中および年度前半・後半)、運営委員会を2回開催する。また、必要に応じ他研究会とのジョイント講演会を開催する。
- ⑬化学分析技能研究懇談会
講演会を2回(第73年会会期中および6月または12月)、運営委員会を1回(第73年会会期中)開催する。また必要に応じ関連する他の研究懇談会とのジョイント講演会を開催する。会員拡充に努め、会員に技術情報の提供をおこなう。
- ⑭熱分析研究懇談会
講演会を1回開催予定。熱分析討論会を1回開催予定。運営委員会を3~4回開催する。またメーリングリストを活用し、情報交換を行う。
- ⑮溶液反応化学研究懇談会
講演会を1回と懇談会を1回(いずれも第73年会中)開催する。第46回溶液化学シンポジウム(千葉)を共催する。メーリングリストを作成し適宜情報交換を行うとともに、会費徴収を試行する。
- ⑯電気分析化学研究懇談会
第84回分析化学討論会にて、討論主題「生命の活動を知る分析化学」を立てて依頼講演5人(予定)を含むシンポジウムを実施予定である。また、第73年会において、依頼講演による講演会および運営委員会を各1回、開催するほか、メールによる情報交換を行う。新規運営委員の募集を図る。
- ⑰ナノ・マイクロ化学分析研究懇談会
第73年会において、依頼講演による講演会および運営委員会を開催する。他の懇談会とジョイント講演会を開催する。
- ⑱バイオ分析化学研究懇談会
本研究懇談会は、バイオ分析化学の研究者間での情報交換や交流、共同研究の促進などを目的とする。9月に第73年会でのシンポジウムを企画する。また、運営委員会をさらに拡充・充実させるとともに、ホームページなどでバイオ分析研究懇談会をアピールして会員増強を図る。2024年度の新たな試みとしては、これまで研究懇談会主催行事であった夏の合同セミナーを、研究懇談会役員メンバーで立ち上げる別組織の主催行事とし、8月~9月上旬の間で開催する。研究懇談会は共催の立場を取り、引き続きサポートを行うことを予定している。
- ⑲スクリーニング分析研究懇談会
講演会を2回(1回は第73年会の会期中)と、運営委員会を1回開催する。またメーリングリストを活用し、会員間での情報交換を行う。

8. 各支部の事業計画

定款第5条の事業を次のとおり行う。

【北海道支部】

- ①研究発表会:夏季研究発表会(7月上旬)、冬季研究発表会(1月中旬)を開催する。
- ②講演会:化学教育研究協議会(11月上旬)を開催する。
- ③セミナー:第40回分析化学緑陰セミナー(7月)、公開セミナー(9月)、第60回氷雪セミナー(1月上旬)を開催する。
- ④支部ニュースの発行:7月、12月(年2回)

【東北支部】

- ①研究発表会:みちのく分析科学シンポジウム2024の開催ならびに令和6年度化学系学協会東北大会を共催する。
- ②講演会:各地区講演会を開催する。
- ③セミナー:分離機能とセンシング機能の化学セミナー2024、2024年度日本分析化学会東北支部若手交流会を開催する。
- ④表彰:東北支部各賞の公募と表彰、東北支部助成金の公募と助成を実施。

【関東支部】

- ①講習会:分析化学基礎セミナー、分析化学の基本と安全セミナー、分析化学基礎実習講座の開催を予定。
- ②地区活動など:新潟地区部会研究発表会、茨城地区分析技術交流会、群馬・栃木地区分析技術交流会、山梨地区分析交流会、千葉県分析化学交流会、若手交流会の開催を予定。
- ③表彰:新世紀賞・新世紀新人賞の公募と表彰を予定。
- ④産官学連携:分析イノベーション交流会の開催を予定。
- ⑤研究交流助成:分析研究イノベーションフォーラム公募と助成を実施。
- ⑥支部ニュースの発行:3月
- ⑦上記支部活動広報のためのホームページほか、常任幹事会で必要と認められた事項を実施。

【中部支部】

- ①研究発表会:第55回中部化学関係学協会支部連合秋季大会(名古屋工業大学)を共催の予定。
- ②講演会:愛知・三重・福井での地区講演会、および研究者招聘講演会の開催を予定
- ③講習会:第34回基礎および最新の分析化学講習会を開催の予定。
- ④セミナー:第41回分析化学中部夏期セミナー、「分析中部・ゆめ21」若手交流会・第24回高山フォーラムを開催の予定。

【近畿支部】

- ①講演会:支部講演会(4月、7月、12月)、近畿分析技術研究奨励賞受賞講演会(3月)を開催予定。
- ②講習会:ぶんせき講習会・基礎編(1,2)(5月、6月)、同・実践編(第68回機器による分析化学講習会)(7月)、同・発展編(会期未定)を開催予定。
- ③セミナー:提案公募型事業(随時)、第18回近畿支部夏季セミナー「ぶんせき秘帖」を開催予定。
- ④支部ニュースの発行(年2回発行予定)
- ⑤分析化学討論会(5月、本部事業)を京都工芸繊維大学で開催予定
- ⑥若手への国際交流助成を年2回募集する(支部復活事業)

【中国四国支部】

- ①講演会:支部講演会(3月)、岡山・広島・山口・愛媛・徳島・鳥取・島根・高知地区講演会、外国人学者講演会を開催の予定。
- ②セミナー:第30回中国四国支部分析化学若手セミナー(愛媛)を開催の予定。

【九州支部】

- ①研究発表会:第61回化学関連支部合同九州大会(6月)を開催の予定。
- ②講演会:第37回若手研究講演会および第42回夏季セミナー(7月)、支部講演会・見学会(11月)のほか、機器分析ワークショップや外国人講演会、地区懇談会などを随時開催の予定。
- ③講習会:第62回分析化学講習会を開催の予定。

令和6年度予算書

(令和6年3月1日～令和7年2月28日)

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額(税込)	令和5年度予算額(税込)	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1. 経常増減の部			
(1) 経常収益			
基本財産運用益	400	200	200
基本財産受取利息	400	200	200
特定資産運用益	1,300	640	660
退職給付引当資産	200	200	0
標準物質開発基金	0	100	△ 100
分析技術教育基金	0	0	0
国際交流事業基金	300	300	0
分析化学研究奨励基金	800	0	800
預り保証金引当預金	0	0	0
支部研究懇談会特定預金	0	40	△ 40
受取入会金	101,300	127,000	△ 25,700
受取入会金	101,300	127,000	△ 25,700
受取会費	66,775,000	67,627,000	△ 852,000
正会員受取会費	23,962,000	24,199,000	△ 237,000
学生会員受取会費	2,010,000	1,726,000	284,000
維持会員受取会費	13,232,000	13,327,000	△ 95,000
特別会員受取会費	14,999,000	15,717,000	△ 718,000
公益会員受取会費	6,004,000	6,091,000	△ 87,000
支部研究懇談会受取会費	6,568,000	6,567,000	1,000
賛助会員受取会費	0	0	0
事業収益	103,175,000	102,403,000	772,000
購読料収入	4,308,000	6,659,000	△ 2,351,000
年会収入	18,232,000	12,510,000	5,722,000
討論会収入	12,115,000	6,540,000	5,575,000
講演会収入	6,446,000	6,534,000	△ 88,000
講習会収入	7,670,000	11,443,000	△ 3,773,000
研究懇談会収入(含む若手の会)	4,900,000	450,000	4,450,000
技能試験収入	3,102,000	6,262,000	△ 3,160,000
分析士事業収入	1,369,000	1,040,000	329,000
支部研究懇談会討論会収入	4,520,000	4,109,000	411,000
印税収入	606,000	861,000	△ 255,000
教材頒布収入	53,900	110,000	△ 56,100
標準物質収入	18,108,000	17,341,000	767,000
広告料収入	16,707,000	22,531,000	△ 5,824,000
別刷頒布収入	5,017,000	5,974,000	△ 957,000
複写権使用収入	21,000	39,000	△ 18,000
JIS改正受託収入	0	0	0
事務委託収入	0	0	0
受取補助金等	510,000	2,084,000	△ 1,574,000
受取国庫補助金	0	0	0
受取民間補助金	450,000	1,474,000	△ 1,024,000
自治体補助金	0	0	0
本部からの補助金	0	0	0
その他からの補助金	60,000	610,000	△ 550,000
受取補助金	0	0	0
受取寄付金	370,000	370,000	0
受取寄付金	370,000	370,000	0
雑収益 雑収入	1,135,000	3,030,000	△ 1,895,000
受取利息収入	1,000	34,000	△ 33,000
雑収入	1,134,000	2,996,000	△ 1,862,000
経常収益計	172,068,000	175,642,000	△ 3,574,000
(2) 経常費用	0	0	0
事業費	137,058,000	137,469,000	△ 411,000
給与手当	21,546,000	19,906,000	1,640,000
臨時雇賃金	8,225,000	8,087,000	138,000
退職給付費用	1,321,000	1,082,000	239,000
法定福利費	4,541,000	3,402,000	1,139,000
会議費	13,735,000	18,195,000	△ 4,460,000
旅費交通費	5,910,000	7,404,000	△ 1,494,000
通信運搬費	1,470,000	1,728,000	△ 258,000

令和6年度予算書

(令和6年3月1日～令和7年2月28日)

(単位：円)

科 目	令和6年度予算額(税込)	令和5年度予算額(税込)	増 減
減価償却費	648,000	700,000	△ 52,000
修繕費	1,412,000	1,045,000	367,000
消耗品費	1,931,000	2,047,000	△ 116,000
印刷製本費	18,434,000	16,968,000	1,466,000
光熱水料費	0	250,000	△ 250,000
賃借料	10,394,000	4,146,000	6,248,000
支払リース料	0	210,000	△ 210,000
支払保険料	65,000	15,000	50,000
諸謝金	5,687,000	7,445,000	△ 1,758,000
租税公課	3,949,000	2,932,000	1,017,000
支払負担金	662,000	283,000	379,000
支払助成金	5,310,000	5,060,000	250,000
委託費	27,818,000	33,320,000	△ 5,502,000
表彰費	1,885,000	1,996,000	△ 111,000
雑費	1,175,000	548,000	627,000
会長企画戦略経費	0	0	0
記念行事費・情報交換会費	940,000	700,000	240,000
管 理 費	35,010,000	38,173,000	△ 3,163,000
給与手当	10,773,000	11,944,000	△ 1,171,000
臨時雇賃金	5,723,000	4,387,000	1,336,000
退職給付費用	789,000	649,000	140,000
法定福利費	2,270,000	2,041,000	229,000
福利厚生費	560,000	72,000	488,000
会議費	0	0	0
旅費交通費	1,348,000	1,023,000	325,000
通信運搬費	1,291,000	1,940,000	△ 649,000
減価償却費	24,000	27,000	△ 3,000
修繕費	261,000	261,000	0
消耗品費	281,000	399,000	△ 118,000
印刷製本費	0	225,000	△ 225,000
光熱水料費	257,000	97,000	160,000
賃借料	646,000	357,000	289,000
支払リース料	4,358,000	4,086,000	272,000
租税公課	6,000	7,000	△ 1,000
支払負担金	0	1,623,000	△ 1,623,000
委託費	6,146,000	9,031,000	△ 2,885,000
雑費	277,000	4,000	273,000
会長企画戦略経費	0	0	0
経 常 費 用 計	172,068,000	175,642,000	△ 3,574,000
評価損益調整前当期増減額	0	0	0
評価損益等計	0	0	0
当期経常増減額	0	0	0
2. 経常外増減の部			
(1) 経常外収益			
固定資産売却益	0	0	0
経常外収益計	0	0	0
(2) 経常外費用			
経常外費用計	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	0
一般正味財産期首残高	244,720,839	246,971,668	△ 2,250,829
一般正味財産期末残高	244,720,839	246,971,668	△ 2,250,829
II 指定正味財産増減の部			
当期指定正味財産増減額	0	△ 853,299	853,299
指定正味財産期首残高	0	853,299	△ 853,299
指定正味財産期末残高	0	0	0
III 正味財産期末残高	244,720,839	246,971,668	△ 2,250,829